

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 1 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570813519号
法人名	カフシキガイシャ 株式会社 えがお
事業所名	グループホーム ^{スギヤ} 杉矢崎
所在地	大仙市大曲西根字杉矢崎12-6 (電話) 0187-86-4070
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年11月24日

【情報提供票より】 (平成21年11月10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 (常勤 5 人 非常勤 3 人 常勤換算 7.6 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低 73 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北組合総合病院、吉方内科医院、井関歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

系列事業所で統一した「地域と共に」との理念を掲げ、利用者一人ひとりが地域の中で喜びと自信を持ちながら暮らすための支援をめざしている。
 管理者と職員はその人にとって最も相応しい支援方法を共に考え、歩行や食事が徐々に改善されるなど自立に向けたサービス提供やケアを実践している。
 そのため、ケアにあたる職員のスキルアップや資格取得に力を入れており、研修計画の策定による内容の充実、テーマ別研修の実施、専門知識の習得や他事業所との交流などでサービスの質を確保している。
 また、地域との関わりを大事にし、管理者が積極的に地域に出向いて関わりを持ち、認知症サポーターの養成など地域密着型サービスとして機能還元を努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果を基に改善計画を作成し、理念の共有化や地域、行政との連携、研修計画の作成やアセスメント様式の工夫など、改善目標に沿って優先順位をつけながら具体的な改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で自己評価及び外部評価の意義と効果を説明し、全職員の共通認識の下で自己評価に取り組み、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では外部評価結果を報告し、改善計画に沿って意見交換を行い、改善経過も確認しながら具体的なサービスの向上や取り組みにつなげている。 また、避難訓練への地域住民の参加や協力が必要との意見から、地域への働きかけや交流の方法などについて参考にしていく。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や苦情相談体制を確保し、普段から家族との関わりを大切にしているが、具体的な苦情や要望がないため、利用者及び家族の潜在的な思いを把握するため、独自のアンケート調査の実施を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者と共に小学校や保育園行事に参加して交流したり、近所の方による草刈りや果物などのお裾分け、ぶどう狩りのお誘いなど普段から関わりはあるものの、町内会組織がないため、管理者が積極的に地域に出向いて認知症サポーター養成講座を開催するなど事業所側から働きかけている。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営									
1. 理念と共有									
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共に」の基本理念のもと、その人らしく普通の生活が送れるよう、また、住み慣れた地域で安心して暮らせるように努めている。		今後も理念の実現に向け意識が向上して行くよう、努めて行く。		「地域と共に」との理念を掲げ、地域の中で喜びと自信を持ちながら暮らせるよう、意思と人格を尊重しながら支援することをめざしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時研修に運営理念についての研修を設定している。またユニットごとの目標設定の際にも理念をベースに設定するように意識的な取り組みをしている。		今後も理念研修などを通してを再確認できるような取り組みをして行く。		理念を玄関やホールに掲示し、理念に基づいて事業所全体のケア目標を毎月掲げ、さらに目標を達成するための職員個人目標を設定してケアにあたっている。 また、職員採用時には新任研修の中で理念の理解に努め、管理者及び職員が理念を共有しながら意識的に取り組んでいる。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には理念について入居時に説明し、入居後も「えがおだより」の送信や家族会の開催等で伝えている。また地域の方には広報誌を発行しているがまだ十分とは言えない。	○	継続的な取り組みと、「地域公開講座」などを通して理解をいただくなど工夫をして行きたい。				
2. 地域との支えあい									
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣の家や、近隣の方とは声をかけ合ったりしている。立ち寄ってくれるおさんや気軽に入居者さんに声をかけてくれる方もおり民生児童委員の方の協力もありご近所と関わりが増えてきていると感じる。	○	継続的な取り組みが必要であり、積極的な関わりをもって行きたい。				
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校・高校の体験学習の場として活用していたり積極的に受け入れを行っている。また、地域の小学校・保育園の行事の際にはお招きいただき参加している。地域で認知症サポーター養成講座も開催して交流に努めている。	○	これからも地域の一員として認めていただけるようさらに役割を考え、積極的に関わりをもって行きたい。	○	音楽療法ボランティアの訪問や保育園児が散歩途中に立ち寄るほか、地域の小学校の音楽祭や保育園行事などに利用者と共に参加して交流している。 また、中高生の体験学習やヘルパー研修等を積極的に受け入れ、前回調査時に予定していた認知症サポーター養成講座を開催するなど事業所の機能還元にも努めている。	○	地域の町内会組織がないため、管理者が交流センターなど地域の方々が集まる場所に出向き、事業所の理解を深めるよう努めているが、事業所を訪問しての関りが少ないと感じているため、地域の社会資源を活用して情報収集しながら、今後の具体的な交流の機会づくりを工夫してほしい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民向けに認知症サポーター養成講座も開催し、地域で認知症介護で困っている方がいる時は、気軽に相談していただけるよう伝えている。しかし実際には相談の件数は少なく専門性がうまく伝わっていないように感じる。	○	専門性を活かして地域貢献ができるように、積極的に活動をして行きたい。				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用									
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には全職員が関わり、評価の内容についてその項目が意図するところの把握と現状のサービスとの比較によってサービス向上につなげて行くようにしている。外部評価も同様であり、「慣れ」などにより見えなくなっている部分の気づきに役立つものとして捉え、改善につなげて行くようにしている	○	自己評価・外部評価の実施は評価を活かしてサービスの向上させていく目的があることを全職員が理解できるよう継続して学習する機会を設け取り組んで行きたい。		前回評価結果を受けて職員会議で評価の意義や効果を説明し、日常業務での「慣れ」への気づきに生かせると捉えている。 また、全職員の共通認識の下で自己評価に取り組み、それを管理者がまとめており、評価結果から改善計画を作成して具体的な改善につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いは貴重な意見と捉え、全職員にも周知するようにし、サービス向上に活かす努力をしている。	○	運営推進会議であがった意見を大事にし、それについて考える機会を随時作って行きたい。	運営推進会議では外部評価結果を報告し、改善計画について率直な意見交換を行い、経過なども確認しながら具体的な改善や取り組みにつなげている。 また、避難訓練の状況を説明し、地域住民の参加や協力を働きかけている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス情報提供と研修情報をあわせた「月間えがお」を毎月配信している。介護保険事務所や福祉事務所などとは連絡がとれている。また地域包括支援センターからもケアプラン点検研修などの連絡のために来訪してくれる。	○	情報交換や連絡を密にとれるように努力して行きたい。また、どのような取り組みをすることが重要であるか再度考えて行きたい。	生活保護の方がいるため福祉事務所担当者が定期的に訪れ、地域包括支援センター主催のケアプラン点検研修への参加や認知症サポーター養成研修の実施など前回調査時よりも積極的に関わりを持っている。 また、法人全体の広報「月間えがお」を関係機関に配布して情報提供しており、気軽に事業所の思いを伝え、相談にも快く応じてくれるなど協働関係を築いている。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部講師を招き研修を行い、参加できない職員にはカンファレンスで伝達したがまだ十分とは言えない。個々人に必要な制度活用ができていないか再度確認する必要がある。	○	権利擁護事業や成年後見制度の利用が必要な方がいないか確認し、必要な方には援助が受けられるよう支援して行きたい。また職員には意識統一のため権利擁護について勉強する場を設けて行きたい。			
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止の研修を全職員が行い、職員の言動や利用者さんの表情や言動からも虐待が行われていないか確認をしている。		今後も虐待防止や制度について繰り返し確認できる機会をつくっていき、ご家族に対してもアドバイスや情報提供ができるように援助して行きたい。			
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、不安や疑問については納得いただけるように説明する努力をしている。ご本人に対しては理解力の問題から困惑しないように説明する努力をしている。	○	契約書の内容も次第に多くなり説明に長時間を要し、大変な作業であるが今後も分かりやすく適切で理解・納得のいく説明をする工夫をして行きたい。			
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしたり、思いを遠慮なく話していただける関係作りを心がけ、また日々の関わりから思いを汲み取るようにしている。苦情や要望に対しては速やかに策を講じるようにしている。外部者へ現せる機会は運営推進会議などがあるが十分には行っていない。	○	遠慮なく言っていただけるような機会の設定や場面を増やして行きたい。また法人全体の家族会などの機会にご家族間の意見交換ができるようにしていきたい。			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動に関しては、お便りや写真で報告されている。暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は面会時や利用料の請求時に報告している。		今後の継続して行きたい。	広報のほか毎月「杉矢崎だより」を発行し、職員の異動等も含めて事業所全体の状況を報告している。 また、利用者一人ひとりの生活の様子を手紙と写真で知らせ、面会時や電話などでも暮らしぶりを詳しく伝えているほか、金銭管理状況も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内の受付窓口や公的機関への連絡先を利用契約書や重要事項説明書に記しており入居時に説明している。また面会時にはコミュニケーションをとり、話しやすい環境作りも心がけている。しかし、意見、不満、苦情を遠慮なく言ってもらえる取り組みや関わりがまだ十分とは言えない。	○	遠慮なく意見、不満、苦情を言っていただけるような関係作りとアンケートの実施を検討して行きたい。	玄関先に意見箱を設置し、契約時に苦情対応体制について説明しており、普段から家族との関わりを大切にして意見や不満がないか確認している。	○	前回評価結果での課題であるが、事業所独自の家族アンケート実施を検討しているため、些細な要望や相談でも柔軟に苦情として捉え、そこから改善につなげてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週管理者会議、毎月の主任会議やスタッフカンファレンスなどで意見や提案を聞く機会を設けている。		今後も積極的な意見交換の場を設けていきたい。			
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じ、話し合いをし目的をもって勤務の調整に努めている。		柔軟な対応に向けた勤務体制を継続させていきたい。			
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者さんやご家族に与える影響を考慮している、が、職員が変わる場合は新人職員に対し、研修の実施やOJTにて利用者さんへの影響が最小限に抑えられる努力をしている。		今後も利用者さんやご家族への影響が最小限となる努力をしていきたい。	系列事業間での異動や離職もあるが、職員交代や新任職員に対しては法人内部研修を実施し、経験のある職員と共に利用者に関わりながら馴染みの関係づくりに努めている。 また、異動や離職時には利用者及び家族にも伝え、利用者への影響を最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は教育委員会を組織し、年間計画に基づき毎月勉強会を開催している。また、外部から専門的分野の講師や大学教授等招き勉強会を開催している。外部研修は職員の能力や希望に応じて参加している。また法人内で研究発表会や実践報告会へむけての取り組みをしている。		継続的フォローアップが出来るように、個人の能力に応じた指導で育成を行っていききたい。	○ 法人全体で教育委員会を組織し、職員一人ひとりの個人目標や希望などを反映した内部研修の年間計画を立て、それに基づいて勉強会を実施しているほか、資格取得のための試験対策研修も行っている。 また、外部研修にも職員の能力や希望に応じて参加しており、「振り返りシート」に研修成果をまとめ、回覧や伝達する仕組みとしている。		○ 職員の個人目標や希望を反映した年間研修計画を作成しているが、今後は目標に対する達成度や評価なども取り入れ、そのうえで必要な内部・外部の研修計画を作成するといった仕組みづくりを検討してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北地域のグループホーム連絡会に加入し、同業者との交流や情報交換、勉強会等を行っている。しかし、管理者や一部の職員しか参加できていないこともあり積極的な関わりをしていけるよう努力して行きたい。	○	これからも職員同士の意見・情報交換等を行う機会を増やし、積極的に関わって行きたい。また同一法人内ではあるが他GHへの交換実習も予定されている。	○ 圏域、県、全国の連絡協議会に加入し、管理者や職種など部門毎に情報交換や勉強会を行い質の向上につなげている。 また、一部の職員だけでなく全職員が積極的に交流できるよう配慮しており、系列事業所との交換実習によるネットワークづくりにも努めている。		
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦会を立ち上げ年に数回、行事を企画し、交流をしている。また普段から気軽に悩みや意見が言える雰囲気作りを行っている。		これからもストレスが軽減でき、働きやすい環境作り、処遇改善も目指して行きたい。			
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人、個人が向上心を持って取り組みができるよう必要な研修への参加、読書手当の支給などを行っている。また月2回の社内研修設定で学べる環境作りに努めている。		これからも職員の要望に答えられるよう努めて行きたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用申し込み後にはご本人と面談し、話しやすい雰囲気作りをし、ご家族からの情報と合わせて、望む生活の聴取をしている。		今後も個々人の状況に合わせた関わり方で信頼関係を築いて行きたい。			
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までの間に何度か希望を聞いたり見学の機会を設けて具体的に生活をイメージしていただいたり話し合いを重ね信頼関係を築く持つ努力をしている。		今後も個々人の状況に合わせた関わり方で信頼関係を築いて行きたい。			
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合ったり主治医からの情報、居宅介護支援事業者と情報交換などの連携を図っている。		今後も適切な対応ができるように他サービスの内容の理解を深めながら対応して行きたい。			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得した上で入居していただけるように、状況に応じてお茶を飲みに来ていただくような対応をしている。しかし、場合によっては入居を急いでいる方もおり、できない場合もある。	○	今後も状況に応じた必要な援助をして行きたい。ご家族には。その必要性を説明し、理解していただけるように取り組みをして行きたい。		利用相談から開始まで時間がある場合は、自宅訪問や見学を兼ねて訪問してもらい、利用者との関係づくりに努めている。 また、退院後の急な利用を望む場合でも、病院に何度か足を運び、本人及び家族と話し合い、納得したうえで利用につなげている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が、入居者に助けってもらったり教えてもらったり、一緒に過ごしていく中で、共に支えあい、喜怒哀楽を共有するような関係を築けるよう日々取り組んでいる。		今後も年長者である利用者から生活上のマナーを教わったりしながら支えあう関係の継続をして行きたい。		料理の味付けや山菜の下ごしらえ、畑のむねづくりや編み物など利用者の経験から教わり、男性職員の料理の先生役も担っている。 また、お手玉など昔の遊びも教わり、食材の選び方や植物の育てなどは利用者の知恵を参考にしている。	
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には行事などの参加の呼びかけや負担にならない程度の関りが継続できるよう外泊・外出・面会・電話などの際に援助を行っている。		これからもご家族との関わりが継続できるよう援助して行く。			
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係や思いを理解し、個々人の状況に合わせて、病状により時に悪化している場合にはご本人の代弁者としてより良い関係が築けるよう援助している。		これからも家族に対しての働きかけの工夫を続けて行きたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意見も聞きながら、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所の関わりを希望される場合は関係が途切れないよう、支援する努力をしている。		入居者一人ひとりが大切な人と触れ合ったり、交流する機会をもちながら暮らしていける支援の継続をしていきたい。			
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性のよい利用者同士と一緒に過ごせるような環境作りを行い、相互の助け合いの場面を見る事もあるが、常時自然にできているわけではないことから職員が声かけや、見守りを行っている。	○	さりげない見守りと一人一人にあった声かけをし、利用者同士の関係の支援をしていくための職員の資質を向上するような研修を取り入れていきたい。			
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居してからも電話や来訪があり、近況報告を受けたり、介護相談にものっており、安心して自宅での生活が継続できるように関わりを持っている。		退居後も継続的なケアを受け安心して生活できるように、今後も関わりを大切にしていきたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話での聴取や言動を観察、ご家族からの情報収集などで希望、意向の把握に努めている。また、コミュニケーションが難しい方には心身の状態に配慮しながら意向の把握に努めている。		入居者さんとコミュニケーションを十分に図り、意識的に希望を引き出しアセスメントできるように今後も職員教育をして行く。		アセスメントの段階で利用者一人ひとりの思いや希望を詳細に把握し、職員間で共有したうえで利用者に関わることで、意思疎通が困難な方でも日常の言動を意識しながら意向や希望の把握に努めている。	
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際本人、家族から出来るだけ詳しく聞き、経過の把握に努めている。		研修を通じてアセスメント、問題意識のレベルアップも図って行きたい。			
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の記録の他に昼夜の様子が把握できるような記録、排泄状況、食事摂取状況等の記録をしている。		研修などを通じて学習しこれからも徹底して行く。			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とは相談しながら作成している。本人からは日常的に生活する中で、意識的に本人が求めていることを引き出し、その思いを取り入れて職員の意見をふまえて作成している。		今後もセンター方式を活用して本人の思いを取り入れてチームで作る介護計画を継続して行く。		アセスメントにセンター方式を取り入れたことで利用者及び家族の意向を把握しやすくなり、生活するうえでの課題やケアのあり方について職員間で意見やアイデアを出し合いながら個別の介護計画を作成している。	
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスし、3ヶ月ごとに判定会を行い見直し、また状態変化時のカンファレンスも行い見直しが出来ている。		今後も現状に即した新たな計画作りをして行く。		利用者の健康状態や栄養摂取状況、日々の活動状況などが一枚で全て把握できるよう管理日誌の様式を独自に工夫し、各担当職員の気づきなどを踏まえて、より具体的な介護計画の作成につなげている。 また、毎月のモニタリングやカンファレンス、3か月毎の判定委員会で話し合い、状態変化に応じて期間にとらわれず臨機応変に見直している。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの実践を記入している。情報を共有するため申し送りノート、連絡ノートも活用している。		今後も記録と実践の継続をしていきたい。			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
	17 39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご希望の医療機関の受診や、個人の買い物の要望など、ご本人やご家族の心身の状態や要望を把握し、柔軟な対応に努めている。		本人や家族の希望によりできる限り、今後も柔軟に支援をしていきたい。		医療機関への受診や買い物などの支援を柔軟に行い、家族には事前と事後の連絡・報告をしており、通院日など連絡事項を連絡ノートや管理日誌で共有し、利用者及び家族の要望等が確実に伝わるよう工夫している。 また、常勤及び非常勤の看護師を配置し、24時間対応の医療体制を充実させている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	地域の保育園・学校行事にもできるだけ参加しており、消防署からは防災訓練などで定期的に訪問していただいている。民生児童委員の方には運営推進会議にも参加していただき地域の情報を教えていただいている。		これからも地域資源を活用し、ご近所の方々と交流を図り、ホームをご理解いただくことでさらにご協力がいただけるようになり入居者が安心して楽しく生活できるよう支援していきたい。			
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は本人の意向や必要性がないが、希望があれば支援していく。		他サービスの利用の希望に備えて情報収集に努めていきたい。			
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の利用者さんは関わっていないが必要に応じて協働出来る体制にある。		必要に応じて地域包括支援センターとの協働できる体制を継続していきたい。			
	18 43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局を利用し適切な医療を受けられるよう支援している。またかかりつけ医の訪問診療の際は薬局の方も一緒にご本人と接しアドバイスをいただいている。		かかりつけの機関とは連携できているので、ご家族と話し合いを持ちながら、今後も適切な医療を受けられるよう支援の継続をいていきたい。		かかりつけ医や地域の協力医療機関と連携し、希望に応じた受診やかかりつけ医による毎月の往診、薬剤師の定期訪問など臨機応変に支援している。 また、介護度の高い方の通院時には家族の同行を依頼し、状態の把握とともに情報の共有に努めている。	
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ専門医に紹介してもらい受診ができています。精神科領域の入居者さんは状態が安定するまで専門医の受診を継続しながらかかりつけ医と情報交換ができています。		今後も認知症に関する診断や治療方法について、相談や助言が受けられるよう、必要ときにはかかりつけ医、専門医と情報を共有できる関りを継続していきたい			
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所に非常勤看護師を配置しており24時間連絡体制を確保して健康管理や医療チェックの支援を行っている。		今後も健康管理や医療チェックの支援の継続をしていきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は退院に向けた調整や必要な援助について病院関係者と情報交換を行い、ご本人の援助が受けれるようにしている。		入院しなくても良い状態に健康管理できることが最良ではあるが、入院が必要な際にはこまめにご本人を訪問したり、ご家族と協力し認知症の悪化を最小限に努めるなど対策を計り、退院後の生活にスムーズに移行できるように医療機関との協働に努めていきたい。			
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の「重度化した場合における対応に関する指針」に基づき、重度化・終末期のような状態が考えられる場合はご家族やかかりつけ医などと、連絡を密に取り合い段階的に話し合いをして方針を決めている。		今後も状態の変化に応じてご家族、かかりつけ医などと話し合い、ご本人にとって最良の方針を考えて生きたい。		重度化した場合の対応として、契約時に家族と相談しながら終末期の対応方針を確認しており、常勤看護師の配置や医療機関との連携など体制も確保している。	
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の「重度化した場合における対応に関する指針」に基づき、ご本人やご家族の希望や意見を尊重しながら、医師・看護師・職員で連携して支援するように努めている。しかし、事業所で出来る限界についても説明し、必要な場合は医師の判断によって援助を行っている。	○	かかりつけ医とご家族、事業所の職員を含めたチームで支援できるところを見極めご本人、ご家族の意向をふまえ引き続き検討していく。			
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所前の職員の面接訪問や、ご本人なんのホームの見学などで住み替えによるダメージが軽減したり、退去後は同じような環境で生活できるよう介護サマリーなどを活用し情報提供を行っている。また移った後もご相談があれば応じている。		今後も入居前には担当のケアマネージャーやご家族とご本人に面会したり、また、退所後には関係者と連絡を取り、ケアの引継ぎをしていきたい。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の人格を尊重し、ご本人の能力に応じた言葉かけや対応を行うようにしている。記録等も施錠し、保管している。		勉強会やOJTにて継続的に職員教育を行い、プライバシー保護を徹底できるようにしていく。		職員採用時の研修で個人情報の取り扱いやプライバシー確保について徹底しており、利用者の性格に合った言葉かけやプライバシーを侵害していないかなど職員間で意識しながら接している。また、個々のケース記録などは施錠して保管しており、記録内容や打ち合わせの声などが漏れないよう衝立を使用するなど、前回評価結果を受けて工夫している。	
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々人が自己決定ができるよう、言葉遣いや接しかたを考え、能力に合わせた個別の関わりを多く持つことに努めているが、職員の力量にも差があり全員に十分にできているとはいえない。	○	入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っていけるよう努力して行く。また勉強会やOJTにて状態に応じた対応が出来るように職員のレベルアップを図りたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合やペースで業務を進めて行くことがないように努めている。また個人個人の希望も取り入れ業務変更も行っている。しかし全員に対してできているとはいえない。	○	センター方式のシートの活用により、一人ひとりの生活リズムやペースを知り、その方に合わせた支援を心掛けて行っていく。	基本的な一日の流れはあるが、遅く起きる方だけ食事時間をずらして一日2食にしたり、何度も外に出たくなる方や生き生きと調理を手伝う方など、利用者の生活リズムやペースを把握し、その日の状態や意思を確認しながら一人ひとりに合った支援に努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族にも協力をいただき衣類や化粧品などの準備をお願いしている。理美容院には送迎の支援をしている。また、行事などで外出の際は化粧をするなどの声かけをした楽しんでいただけるよう配慮している。		これからもご本人の習慣や好みを考慮し、おしゃれや、身だしなみの援助を継続したい。			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事準備をし、食事をとっており、片付けも行っている。日ごろの会話や摂取状況から好みをしり一人一人の食事にとり入れる工夫をしている。		行事や季節感も取り入れ、時には外食なども計画しながらこれからも継続して支援して行きたい。	エプロン姿で調理に精を出す方、器用に食材の皮むきをする方、お茶を入れる方など利用者が自主的に準備から片付けまで関わっている。また、使い慣れた湯のみや箸を使用し、食欲に応じて軽食にしたり、旬の食材や畑で収穫した野菜を献立に反映させているほか、外食なども取り入れながら食事を楽しめるよう支援している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好の確認をし、健康状態が維持できる範囲ではあるが希望のものを提供している。		できるだけ嗜好が楽しめる援助をして行きたい。			
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄チェック表にて個々のパターンを確認し、声かけや誘導をし気持ちよく排泄できるように声かけや誘導をしている。また不安や羞恥心、プライバシーにも配慮した援助を心がけている。	○	個々の能力に応じた排泄方法の選択や援助を行い、プライバシーに配慮した援助を常に行きたい。			
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能であり、健康状態を確認しながら見極めをしている。その方に必要な支援をしている。また安全な入浴ができるよう浴槽台、浴槽手すりを設置し介助、見守りを行っている。		これからも安全で、望む入浴ができるよう支援して行きたい。	毎日でも入浴が可能で、就寝前やタイミングを見極めて入浴できるようバイタルや健康状態を確認しており、同性介助についても意思確認しながら羞恥心に配慮している。また、前回評価結果を受けて手すりや浴槽の深さを調整する台を設置するなど、安全な入浴環境を整えている。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活のペースを大切に、その時の状況で好きな場所で休息したり快適に眠れるように室温、掛け物の調整など支援ができています。		今後もひとり一人の生活パターンを把握し、安眠と休息が取れる環境作りの継続をして行く。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援							
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴・職歴などから一人ひとりの力を活かした、役割り、楽しみごと、気晴らし方法を考え、職員や他の利用者さんと共に行えるように支援している。		今後も生きがいを持てるよう過去に行ったような様々なことを提案しながら、その方らしく暮らせるよう支援の継続をしていきたい。	事業所に仏壇があり、供物の上げ下げや玄関の掃除、食事づくりや畑づくりなどのほか、除草や除雪、観葉植物の世話など自然に役割を持って過ごしている。 また、管理日誌に一人ひとりの役割活動を詳細に記入し、歌番組を楽しんだり趣味活動等の場面づくりにも生かし、張り合いのある暮らしにつなげている。	
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはGM管理であるが本人、家族の理解を得て許容範囲内の金額で自己管理している利用者さんもいらっしゃるの、声かけ、見守りなどの、支援をしている。		今後も希望や能力を見極め、個々にあった金銭管理の支援をしていきたい。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・畑作業など出来るだけ希望にそって戸外に出れるよう支援しているが利用者の身体的理由により十分に希望に副えない場合には外気浴などを声かけしている。	○	歩行状態の悪い人や混乱し易い利用者さんの支援の仕方を考え、個別の援助方法を検討して行きたい。	散歩や買い物、畑仕事など希望に応じて外出を支援しており、行事や遠方へのドライブ、外食や温泉などにも出かけている。 また、重度の方でも車イスで共に出かけられるよう車輦等も確保し、できる限り希望に沿えるよう配慮している。	
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している	学校行事・保育園児との交流・季節を感じてもらえるためのドライブなど希望を取り入れながら外出している。またご家族ともお墓参り・外食などができる支援を行っている。		これからも継続して行きたい。		
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望に沿い、電話や手紙のやり取りの支援を行っている。		今後もプライバシーに配慮しながら支援を行って行きたい。		
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただき食事を一緒に食べてもらったり、お茶を飲んでいただいたり、日頃から居心地良く過ごしてもらえるような声かけをしている。	○	今後も気軽に立ち寄れる場所として心地よく過ごせるよう館内、館外の環境や、もてなし方、お声のかけ方など工夫をして行きたい。		
(4) 安心と安全を支える支援							
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会に全職員出席し理解に努めており法人の指針として、拘束しないケアを目指し行っている。		今後も身体拘束のないケアを引き続き法人全体で実践して行きたい。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は鍵をかけず、入居者の行動を制限することなく、自由に出入りできるようになっている。居室は鍵はない。夜間は就寝時に玄関の施錠している。また散歩時には付き添いをしてご近所の方にも理解いただけるような工夫をしている。	○	これからも鍵をかけることの弊害を理解して、現在の取り組みを継続して行きたい。	夜間以外は玄関に鍵をかけず、自由に出入りができるため、利用者の外出時には職員による見守り、声かけを徹底し、付き添いながら散歩に出かけるなど支援している。	○ 前回調査から課題としているが、町内会組織がないこともあり、地域住民による理解と協力が十分得られていないため、運営推進会議でも検討しながら、地域全体で利用者を見守る仕組みづくりに向けて継続的に取り組んでほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価				
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で連携をとり、さりげない見守りを行っている。夜間は頻回に巡視を行い、安全確認を行っている。	○	これからもさりげない見守りと職員間の声かけが徹底できるよう日常的に意識化し、安全確認して行きたい。				
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者さんの生活に必要な物品については、自立支援も考えながら一人一人の状況に応じて決めている。危険物や汚染物については保管場所や管理方法を決め、環境整備を行っている。		今後も一人ひとりの状態に応じた自立支援の援助と安全に生活できる配慮をして行きたい。				
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やニアミス報告書を作成しそれを基に、職員全員で検討を行い、再発防止に取り組んでいる。また研修や現場を通じてリスクを知り、適切な対応が出来るよう努力している。消火訓練も含めた非難訓練など積極的に行っている。		今後もリスクマネジメントを周知し、事故を未然に防止する取り組みを継続して行く。				
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	消防署に依頼し、普通救急講習をうけている。また、採用時研修に急変時や事故発生時に速やかに、適切に対応できるように繰り返し訓練や研修を行っている	○	今後も定期的に訓練や研修の機会を作り、応急手当や初期対応の実践訓練を行い、適切な対応ができるようとりくんで行きたい。				
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練は定期的開催している。また、運営推進会議でも話し合いはなされているが地域の方には積極的な働きかけは不十分で、就業されている方は都合がつかず参加していただくのが困難である。	○	今後は土日の訓練も検討し、参加していただけるよう、呼びかけを行いたい。	○	防災訓練計画に基づき、夜間の火災や地震を想定した避難訓練、冬季の通報訓練など消防署の協力を得て実施している。 また、総合警備会社にも依頼し、非常時の水や缶詰なども備蓄して緊急時に備えている。	○	訓練への近隣住民の参加もあるが、就業者が多いため土日の訓練実施も検討しており、運営推進会議でも効率的な実施方法について検討してほしい。 また、緊急連絡網に地域住民の役割分担等を明記し、実効性のある支援体制の充実に努めてほしい。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時には環境の変化により起こりうるリスクについて説明をしている。また状態の変化に応じた対応策や予防策についてご家族と話し合いをしている。	○	今後も体調変化の報告を密にし理解、納得してもらうよう話し合っ行って行きたい。				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援									
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックなどで一人ひとりの健康状態に注意し、異変時にはすぐに医師・看護師と連携し対応している。		今後も研修などで職員の知識の向上を目指し、利用者さんの体調変化の早期発見に努め、速やかな対応を行いたい。				
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師と連携をとり服薬支援に努めている。また処方薬に追加など変更があったときは、連絡なノートに記載し閲覧し職員全員が把握できるよう努力している。	○	研修などにより、薬剤についての知識の向上と医師や薬剤師・看護師との連携を強化して行きたい。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状況をチェックし、食事、水分量、運動など自然排便を促す工夫をしている。		今後も出来るだけ便秘にならないよう、飲食物の工夫を行ったり、個々の身体機能適した体を動かす工夫をしていきたい。			
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時や就寝時の歯磨きや義歯洗浄は行えているが、歯茎の炎症などのチェックは不十分である。	○	口腔ケアの必要性を再認識できるよう、全職員が知識を身につけて実践して行きたい。			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の把握はできている。また一日を通して必要量が摂取できるように取り組みをしている。栄養バランス・献立についても外部講師を招き、勉強会を行った。	○	勉強会で学んだことを活かし、摂取量が少ない方、咀嚼、嚥下に問題のある方などへの工夫をし、メニューの見直しも随時行って行きたい。	○	一日の食事や水分量を管理日誌に記録し、一人ひとりに合った支援の基礎として栄養の偏りや低下に努めている。 また、前回評価結果を受けて病院の栄養士を外部講師にを招き、栄養バランスや献立作成について勉強している。	○ 学んだことを実践に生かしているが、栄養バランスが適正かどうか把握するため、関わりのある栄養士からボランティアとしてみてもらうなど、定期的にチェックしてもらえる方法を検討してほしい。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	委員会があり、委員を中心に予防に取り組んでおり、ノロウイルス・インフルエンザについては流行時期前に研修を行い、職員の意識統一を図っている。来訪者にも手洗い・うがいの励行をして予防に努めている。		これからも周知徹底して行く。			
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成し毎日の業務を決め実行している。各自が責任をもって調理器具等の消毒や、食材は安全な物を使うよう、管理している。		これからも衛生管理の徹底と情報収集を行い、常に安全な食材を使用し、提供できるようにつとめていく。			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1)居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ごくありふれた民家を目指して、玄関前の花壇やプランターを利用し季節の花を植え、出来るだけ一般家庭に近い雰囲気になるように努めている。		今後も居心地のいい環境作りのため、入居者さんや、職員のアイデアを取り入れ工夫していきたい。			
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家庭的な雰囲気な環境の中で心地良く暮らしていただけるよう配慮している。共有空間にはテレビ・ソファを置き会話がはずむような場所として活用し、四季を感じていただけるよう、七夕・ひな祭り・クリスマス・名月などを演出している。		消防法や介護保険法を遵守すると家庭的雰囲気と相容れない部分もあるが小物などで工夫をして行きたい。		共有空間にテーブルやソファ、畳のスペースがあり、写真や季節感のある装飾、採光や換気などにより心地よい家庭的な生活空間づくりに努めている。 また、事業所内は決して広くはないが、手すりもなくとも利用者が掴まりながら歩くことができ、利用者の自立につながっている。	
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間がオープンスペースではあるが、ソファや椅子を配置し自由にくつろげるようにしている。また、利用者同士の関係性や状態に応じた環境作りを心掛け、確保できている。		今後も安心できる居場所作りのため、個々にあった配慮と雰囲気づくりの工夫をして行きたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には住み慣れた環境を目指し、できるだけ自宅で使いたれた食器・家具などを持ってきていただけるように説明しているが個人差がある。	○	家族の理解と協力が得られるよう努力し、なじみの環境が提供出来るよう工夫して行きたい。		利用者の好みによりベッドやタンス、鏡、写真、ぬいぐるみなど使い慣れた物や身近にあった物を持ち込み、利用時に持ち物リストを作成して管理している。 また、居室の掃除やシーツ、カバー等の洗濯をチェック表に記入しながら定期的に行うなど、気持ちよく清潔に過ごせるよう配慮している。	
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭いや空気よどみがないように、換気を定期的に行い、また臭いの原因となるものを速やかに取り除くようにしている。1日4回の温度、湿度チェックを行い温度管理も行っている。		入居者さん一人一人に合わせた適切な温度調整を行い、快適に暮らせる配慮を継続して行きたい。			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の残存能力を最大に活かして生活できるよう、必要に応じて手すり・浴槽台・椅子等を提供している。		これからも安全でなおかつ残された力を本人が活かせるような環境作りをして行きたい。			
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	例えばトイレに張り紙をしたり、居室には名札を見えやすくはったり、分かる力を発揮できるような場面作りを心掛けており、一人一人が自然な形で活躍してくれているまた、認知症による誤認や錯覚を引き起こして混乱や失敗を招かないような環境作りをしている。		今後も個々の能力を見極め、混乱や失敗が起こらない環境作りを継続したい。			
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には物干し場、花壇、畑があり自由に水撒きや草取り、外気浴等活動できるようにしている。また、フェンスにブドウの木を植え季節感を感じられるよう工夫している。		今後も建物の外周りや空間の活用し利用者を楽しんでもらえるよう色々な工夫をして行きたい。			

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- * 行事や日常の様子を写真入りでわかりやすく伝える「杉矢崎だより」とご本人の健康状態や毎日の様子を詳細に書き添えたお手紙を毎月送付している。
- * 中学校、高校の職場体験学習などの受け入れをし、グループホームや認知症についての理解を深めていただけるような取り組みをしている。
- * ご近所の方から季節の果物のおすそ分けや、ぶどう狩りのお誘いをうけたり、地域の保育園、小学校の行事に参加したり、地域の方々の関わりを大事にしている。
- * 年間の社内研修予定に基づいて、社内職員が講師となり月に2回社内研修を開催している。また、社外から専門職の講師を招き専門知識の習得に努めている。外部研修へ積極的に参加をするようにしている。
- * 私達は「地域と共に」の基本理念のもと、地域の一員としてその人らしく普通の生活が送れるよう支援して行きます。